

### 1. 事業の必要性・概要

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故を踏まえ、エネルギー転換部門における化石燃料の消費量の増加が予想されるなか、運輸部門を含めた他部門における化石燃料の消費量の削減がより一層必要とされている。また、平成22年6月に閣議決定されたエネルギー基本計画では、オフロード車にあっては、2030年において全建設機械の販売に占めるハイブリッド車等の割合を4割とすること等を目指すこととしているほか、同じく6月に閣議決定された新成長戦略においても、「グリーン・イノベーションによる環境・エネルギー大国戦略」の重要な項目として、次世代自動車の普及促進等が位置づけられている。

このような中、低炭素化・低公害化が遅れているオフロード車については、1台あたりのCO<sub>2</sub>排出量が多いことから、燃料消費量25%~40%の削減が見込めるハイブリッドオフロード車の一層の普及促進を図ることによって、より効果的にCO<sub>2</sub>削減を図り、低炭素化と低公害化を加速させる必要がある。

### 2. 事業計画（業務内容）

1台あたりのCO<sub>2</sub>排出量の削減効果が高いハイブリッドオフロード車を対象に、以下の導入費用の補助を行う。

(1) 補助対象者：民間団体

(2) 補助対象車両

ハイブリッドオフロード車（ショベル・ローダ、フォーク・リフト等）

(3) 補助交付額：通常車両価格との差額の1/2

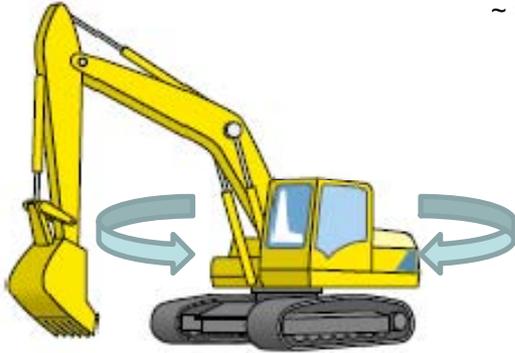
### 3. 施策の効果

1台当たりのCO<sub>2</sub>排出量削減効果が優れるものの、市場投入初期段階にあり本格的な普及に至っていないハイブリッドオフロード車の導入を支援することにより、当該車両からのCO<sub>2</sub>及び大気汚染物質の削減を図るとともに、生産・保有台数の増加や市場認知度の向上による更なる需要喚起により、量産効果や機種拡大による多様化、メーカー間競争市場の醸成等を促し、当該車両の普及促進をさらに加速させる。

# 特殊自動車における低炭素化促進事業 (国土交通省連携事業)

## ハイブリッドオフロード車(ショベル・ローダ、フォーク・リフト等)

～建設業、農業、産業用等、様々な業種で幅広く利用～



ハイブリッド油圧ショベル

車体上部の旋回運動の減速時にエネルギー回生

燃費改善は約25%

約10トン-CO2/台・年

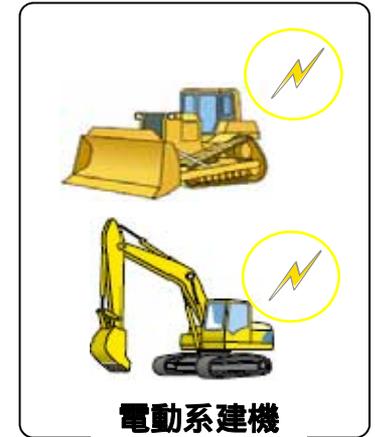


ディーゼルハイブリッドフォークリフト

車体前後進運動の減速時にエネルギー回生

燃費改善は約40～50%

約12トン-CO2/台・年



電動系建機  
(拡充)

1台の導入でハイブリッド乗用車約20台分のCO2削減効果！

1台あたりのCO2排出量の削減効果が高い特殊自動車の率先導入を促し、本格的普及につなげることで、自動車における低炭素化と低公害化を加速